

『プライバシー』と『スティグマ』を考える

日程：2020年11月14日(土)9:30~16:30

場所：仙台弁護士会館4階

申込：63名(会場48名・リモート15名)

参加：58名

—内 容—

9:30~講演

『SNS社会のプライバシー侵害と対応①』 弁護士/薄井 淳

11:00~演習

『SNS社会のプライバシー侵害と対応②』

事例から学ぶ

- ・動画投稿・支援経過のツイート・支援対象者画像の投稿
- ・LINE/メールの第三者への開示・誹謗中傷…

『なぜ「秘密保持」』～信頼関係～

12:00~講演

『スティグマ』という権利侵害①』 弁護士/大橋 洋介

13:30~演習

『スティグマ』という権利侵害②』 社会福祉士/小湊 純一

- ① スティグマ, 社会的スティグマ・・・
- ② 障がい, 認知症, 新型コロナ・・・
- ③ みんなで考え, 思った事を言う

16:00~振り返り 意見交換

16:30 閉会・挨拶

回答回収率 88.4%

職 種		資 格(複数回答あり)	
居宅介護支援事業所	19	社会福祉士	32
地域包括支援センター	11	介護支援専門員	32
施設(高齢)	8	介護福祉士	15
行政	2	精神保健福祉士	2
社会福祉協議会	2	相談支援専門員	1
その他	4	看護師	1
		保健師	1
		その他	1

①「プライバシー」についての講義・演習によって得たことは何ですか

- ・秘密を守る事は相談援助の基本であり、信頼関係を持ってやっていく上で、当然の姿勢である事を心に留めておきたいです。
- ・当然の秘密、約束の秘密、信頼の秘密がある。秘密を保持し、責任を持って取り扱う事により、人々の持つ権利を尊重して保護しなければならないと感じた。
- ・当人の相手側とそれを取り巻く社会の中で、プライバシー侵害の状態はそれぞれ違っているものだという事が分かりました。
- ・人としての良識や良心。支援者としてのあたりまえの秘密保持や守秘義務。普通であたりまえに守られるものと思っていたが、そうではないのだという現実。難しい世の中になってきたと感じるが、SNSなども使い方だと思う。そういったものに振り回されない、支配されないように、一人一人が気をつけるべきだと思います。
- ・SNS等でプライバシーの侵害にあった場合は、その内容をスクショやプリントアウト、写真などで保存しておく事が大切。自分自身もSNSの使用に気を付ける。
- ・生活を支援していくという事は、当事者や、その家族の事など普通に考えれば知られたくないし、知らなくても良い事なども当然の情報として扱っているのではないかと、いう事を改めて考えさせられた。またプライバシーに配慮して関わっていく事が関係性をつくり、保っていく上でも重要である事について、より理解を深める事が出来た。
- ・様々な法律や対応方法を知る事が出来ました。個人情報保護法の中で民生委員の方とのやり取りの時には、情報をどこまで伝えてよいか、生命に関わる時の共有をしっかりとしていきたいと思いました。
- ・SNSによる便利さも大切だが、デメリットもとても大きいという事を再認識した。
- ・福祉の相談支援をしていく人にとって、個人情報保護法等よりも、まず、専門性としてその人の秘密を守る事が基本だという事。
- ・便利なSNSの活用は、しっかり考えてから情報発信をしないと思わぬ事態になる事。
- ・一般的な感覚で不快と感じたら権利侵害と考えてよい事。(必ずしも相手の意思確認は必要ない)
- ・プライバシーに関して、定義や法的な対応手段について学ぶ事が出来た。また改めて考え直す良い機会になった。
- ・事例を通じて、プライバシーに関する権利の保護が難しいと感じた。またSNSを利用する事で軽い気持ちでプライバシーの侵害が起こり得るという事。自身が加害者になる可能性に注意していく。
- ・情報をSNSより得る事が多い今、表現の自由とプライバシーの侵害に配慮しないといけないと感じた。
- ・秘密保持について改めて学び、自分の立ち位置を考えて対応していきたいと思いました。
- ・SNSが普及してきた中で、個人情報使用にあたっては、十分注意する必要があると感じた。
- ・秘密を守る事が相談支援の基本との事で、ケアマネとしても十分注意していきたい。
- ・事例については今後、今回のような事例に関わる際にはサポネットみやぎに相談したいと思う。
- ・手続きが簡単なものこそ複雑で深く仕組みを理解しないといけないと感じた。介護職は、とても身近な場所で本人も知りえない情報も扱っている。その重さ、責任に関わる職員一人一人がいつも心に留めておかなければ、いつでも侵害をし続ける流れになってしまう事。
- ・情報を気安く扱う事はしない事。

<ul style="list-style-type: none"> ・「自分が変われば全てが変わる」は、心して行動する。「受けた人がハラスメント」と思えばハラスメントになる。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が意識をしていない情報が、様々なところに多くある事を認識しました。秘密保持が何より基本である事も再認識しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・当事者（自分のプライバシーを侵害されたら）としての動き、また簡単に侵害する側に立つ危険性…。 ・福祉分野におけるプライバシー侵害について：効果的なケースワークを行うための秘密保持である事。
<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーの侵害において「その人の立場に立った一般の感覚として侵害しているのであれば、プライバシーの侵害になる」と言う事を学べたのは大きかった。 ・ケースバイケースではあると思うので、必要時は、サポネットみやぎを活用していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・プロバイダ責任法がある事を知った。損害賠償請求のクイズの金額で情報の性質によって定められる金額が違うなあと感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSは個人的には好まず利用していませんが、仕事でもプライベートでもプライバシーが脅かされる事は多くの場面である事です。職業上、秘密保持が大原則という事を再認識すると共に、自分でその権利を守れない人へは支援していかなければと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・投稿された側の対応について、具体的な対策を学ぶ事が出来た。
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの投稿という身近な内容で理解しやすかったです。「一般人の感受性を基準にして…」の判定については、然もありませんと目からウロコでした。秘密保持については「法に反していない」から良いのではなく、「論理としてどうか」という事を常に頭において仕事をしていきたいと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ルール違反になるかならないかという視点ではなく、その方から信頼を得られる、損ねる、という論理的な視点で考える事の大切さ。 ・良い対応を目指して考えていく事で、自然にルール違反とは遠ざかるという様に考える事に似ていると感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーを侵害する側、される側に対し、どんな法律があるのか。生まれながらにしての権利、日々の関わりの中で人が人であるがゆえに認められる権利。合わせてSNS社会での怖さを改めて感じました。法律を踏まえて対応など聞けて良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・質問（事例）の慰謝料額の話、プライバシー侵害の重さ、内容が理解しやすかった。 ・個人情報扱う目的を明確に意識しておく事が専門職として、あたりまえの事だと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSは気軽さがメリットではあるが、公開によりプライバシー侵害される恐れがある事を再認識した。自分もSNSをするので冷静に考えて利用したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権である、SNSで気軽に投稿する事が消せないプライバシーの侵害となっている。行う前に良く考える事、自分がされたらどうか考えるべき。 ・表現の自由は憲法上では位置が高いが、プライバシーの侵害は相手の名誉、信用、知性を傷つける。
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの普及により、むしろプライバシーに対する意識が低くなっているように感じる。周りのスタッフ同士でもSNSでつながり、利用者をネタにするやり取りがとて多いのではないかと感じている。そこには熟慮のない投稿や公表に適さないものも多く含まれていると思った。法律的な事と合わせて理解が深まった。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で自分の権利を守れない方については、専門家に相談する事。また、その場合は必ずしも本人の意思は必要ではなく、一般の感覚でおかしい事はおかしいと捉えていい事を学びました。

<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSによる権利侵害の判断において、本人が嫌がっているのか確認出来ない場合に一般的な不快に感じられる程度で侵害と判断出来るという事。また、権利侵害への対応の方法を学びました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報保護, 守秘義務, 秘密保持について学ぶ事が出来た。
<ul style="list-style-type: none"> ・ プライバシーについて少し理解が深まりました。 ・ 個人情報保護法, 守秘義務などとまったくレベルの違うところにある秘密保持について学べて良かったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段何気なく自分のやっている事や, 話している事が相手のプライバシーの侵害につながっているのかもしれないと感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 私がいかにプライバシーについて鈍感だった, 甘かったと思いました。義務としてやっていたかと。演習では動画投稿について色々な見方がありました。嫌がっている事を確かめなくても, 一般人として「普通だったら」考えておかしいと思ったら, それはプライバシーの侵害にあたるのだと。この「普通だったら」という感覚を常に持って業務にあたる事が必要と学びました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回「本人がどのように感じているか」確認しなくても, 『一般的に見てどうか』という視点で判断し, ある程度動けるという事を知りました。 また, 普段何気なく行った事がプライバシーに関する重大な事故を招く可能性もある事を改めて実感し, 日々自分自身の行動を振り返り, 気を付けていこうと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職として個人情報の取り扱いに注意をしていたつもりだったが, 講義や演習を通し, 自分が意識していないところでプライバシーの侵害をしていたかもしれない, してしまう恐れがあると感じた。また, 相談を受けた際には, 専門家への相談を迷わず勧めたいと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族間であってもプライバシーは保護されるべきものである。もしご本人に「自分はプライバシーを侵害されている。」と伝える能力がない場合（または, それを確認する手段はないが明らかに社会的な範囲を超えた投稿である場合）は, 弁護士会や宮城ならばサポネットなどの相談窓口 に状況を伝え, 適切な対処を行ってもらうなど外部からのアプローチも必要なのだと思いました。仕事上知りえた情報はもちろん, プライベートな情報であっても細心の注意を要すると思いました。自分も含めて知らず知らずのうちに, が一番怖いです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段何気なく使っている情報収集の仕方や, 情報提供の仕方に再度確認が必要と感じました。 また, その情報の出し方, 情報の取り方も, ステイグマに陥らないよう, 先入観を持たないよう注意していきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職として, 個人情報保護, 守秘義務を考える事はもちろん, 秘密保持の意味を深く考え, 常に意識していかなければならないと再認識いたしました。それが出来て, 信頼感が作られ, より良い関係性が生まれる。それが出来なければ, 良い関係性など出来ず, 専門職としての関わりが出来ないので, 改めて意識していきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ その行為, 言動が権利侵害に当たるのかどうか, という観点からの判断という事もありますが, それ以前に, 専門職として倫理的にどうなのかという事を基本に据え置くという事を再確認しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰でも SNSなどで情報発信出来るが, 発信をするうえで責任をもつ必要がある。情報をだされる側の立場になって考える事が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務上, 情報共有をする場面が多くあるが, 本人の同意を得るなど, 情報の取扱に注視していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・ プライバシー権の法的な条文や対応について具体的に講義があり, 今後の相談対応に活かせる内容であった。また, 分からない事は弁護士に気軽に相談していきたいと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的に SNS等でプライバシー侵害を受ける事が多くなっている現状から, 人権としてのプライバシー権について事例を通して学ぶ事が出来た。また個人情報保護と守秘義務および秘密保持

についても考える機会となった。倫理的義務としての秘密保持の観点からは、様々な情報の取り扱いが専門職として慎重でなければならない事を実感した。

・情報社会になり誰もが簡単に載せられ、見られるいい所と悪いところ。おもしろ半分で載せたものが相手を傷つけてしまう事や大きな事件になってしまうという意識を持たなくてはいけないのだと思った。

・自分自身は SNS を利用する事は全くないが、うっかり他人のプライバシーを公表してしまう危険性が高い事を改めて感じた。「私生活をみだりに公開されない権利」についても理解を深める事が出来てよかった。演習を通してはプライバシーの権利はもちろんであるが、障害をどのようにとらえるべきか、も合わせて意見交換出来、考察を深める事が出来た。

・SNSが日常に根付いている昨今、守秘義務のある立場として、改めて気を付けなければいけない事。また、(事例のような)相談の場面でも、個人的な感情に流されないようにしながらも、きちんと権利擁護対応できるように、法との連携も含め、再認識する機会となりました。

②「スティグマ」についての講義・演習によって得たことは何ですか

・自分の心の中にある弱さや、怖さの部分にもしっかりと向き合っていきたいと思いました。また、自分がいつ、その立場になるか分からないという事も意識していきたいです。

・スティグマは自分の身の回りに起こるものであると考えさせられた。個人や集団に対する間違った認識や、根拠のない認識は日常生活においてよくある事である。克服するために自己と他者の同一性、個別化、事実と科学、善意と鈍感を十分に気をつけていきたい。

・自分の物事の見方、考え方にも常につきまとうものである事を改めて学んだ気がします。

・確かに怖いテーマです。自然と自分と向き合わなければいけないと感じるテーマです。自分の中から無意識的な差別がなくなるように努力します。

・大橋先生の話の内容が非常に分かりやすかったです。

・「スティグマ」という言葉は聞いた事はありましたが、あまり深く考えた事はなかったので、意味や言葉の重要性などを始めとして日頃から考えていく必要を実感しました。

・認知症の方のスティグマの部分についても今後よく考えたいです。

・自分の中の「普通」とは異なった人を見たり、聞いたりする中で偏見をもつ事はごくあたりまえの事だと思う。自分の偏見を受け止めながら差別など、権利侵害につながらないように考え続けていく事が大事だと思った。

・自己と他者の同一性というレッテルを貼られるのは誰にでも起こり得る事で、いつか自分が取得するかもしれない事。きれいな言葉で決めた方向性だと支援する側の視点になりがちで検証しなくなるため、もっと良い方法はないか、善意を疑い考え続ける事が大切だと感じました。

・自分自身の中に持つスティグマと向かい合い、そこを統制しながら支援や社会生活をしていこうと思います。

・自分の分からない世界への恐怖心からスティグマが発生しているような気がします。

・良かれと思った事が相手にとって不利益となってしまう可能性がある事を忘れない。

・属性によって差別が生まれていく。さらに社会的に正当化されていくという流れが恐ろしいと思った。振り返って考えると自分自身もグループ化して集団を捉え、そのイメージのまま人と向き合ってきた事が多いと感じた。反省しました。

・スティグマと権利擁護の密接なつながりを考えなければいけないと感じました。

<ul style="list-style-type: none"> ・無意識に行っている事が恐いと感じました。個別化を前提に病気の理解等を学んでいきたいと思 います。
<ul style="list-style-type: none"> ・今回初めてスティグマという言葉を知る事が出来、知識を得る事が出来た。具体例では、深い話を 聞く事が出来て勉強になりました。自分のしている事が本当に本人のためになるのか考えながら 今後の支援に活かしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・スティグマを悪意でつけようと思わないと思込んでいる人の多さ。事例を見た時に「専門性」で 読んでいて、「偏見」や「主観」で見えていないと思込んでいる自分に気付いた。
<ul style="list-style-type: none"> ・差別的な事にレッテルを貼り、差別して承認するセルフスティグマについて初めて知りました。 振り返るとアセスメントの時に利用者に対し、セルフスティグマになっていないか？と考える気 付きになりました。しっかりとした事実確認が必要だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・日々仕事上で、一人一人を見るという事を意識して対応していますが、専門性が高いとついつい利 用者のためと話しながらも誘導に近い状況がある。本当にそうなのかと考え続け、振り返りつつ 考え続ける事が大切だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事であり、自分自身もスティグマを持っていた事。それが自分自身に向けられる事もある という事。思考を止めず、考え続けていかなければいけない。満足して考える事を止めないよう に。
<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックスティグマ⇔セルフスティグマの相互関係を教えてもらえたのは実践に役立つと思 う。高齢者が認知症を患い初期の頃、怒りやサービスを頑なに拒む理由はこのあたりにあると思 いました。また、自己と他者の同一性もよく分かりました。これからかみ砕く時間は必要ですが、 知らず知らずに私も、スティグマを他人や認知症を患った方たちにつけていたなと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・カタカナばかりで大変でしたが、差別偏見は個々の中にあるものだからこそ、その本人を本人とし て見て話し合う事の大切さを改めて感じました。頑張ろうと思うけど誰かと相談し、確認しない と難しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・知らず知らずのうちに自分が偏見を持ったり、差別をしていたと感じました。「善意と鈍感」にあ ったように良かれと思ってやっている事が、差別じゃないか思考を停止させずにやっていきたく いです。
<ul style="list-style-type: none"> ・やまゆり園の話、愛の十万人運動の内実を深める事が出来た。
<ul style="list-style-type: none"> ・やまゆり園の話で「わからなくもない」「賛同」などの言葉に私たちが痛痒を感じない社会に歯 止めがかからない。そのブレーキとなる群を増やしていく事をコツコツ…人生の宿題。
<ul style="list-style-type: none"> ・政治的正当性を持って「名称」を変えたとしても、根本的な部分が変わらず経験則等で介護や認 知症が語られる限りスティグマは起こってしまうと思っています。思っても口に出さなけれ ば、その人の認識は表にでない事をよしと思っておりましたが、専門職として認識が少しでも変 わっていければと強く感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ・個別化、自分の対応を振り返り続ける。悩ましいところだが、少しでも防ぐための取っ掛かりを知 れたように思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・自己と他者との同一性。いつか自分に起こる事といつ対象者になるか分からないという事を実感 しました。知らないうちに差別をしている、ステレオタイプ化する事について、追い込んでしま う、抱え込む事で危険性が出る事が恐いと感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉職は、「～してあげる」「せねばならぬ」に振り回される事が多いので、本音を回避せず自覚 しておく事が必要。大橋先生の話聞いて、本音と倫理を分けて考える必要があると思いました。 言語化していただき分かりやすかったです。

- ・障がい理解は高まっている中、一方で障がい者にはなりたくないという別の見方があるという言葉が印象的だった。スティグマを貼られる人、貼る人は表裏一体でステレオタイプにならないよう考えて支援しなければと思った。
- ・烙印, 汚名, 不名誉, ネガティブなレッテルである。
- ・克服のために、自己と他者の同一化, 個別化, 事実と科学, 知性, 善意, 鈍感。
- ・知らず知らずに自分の中にもたくさんのスティグマがある事を改めて感じた。そうした自分がいるという事を受け入れながら、別な視点で自分を見る事が大切だと思った。
- ・スティグマについては、常々、障がい者差別（出生前診断なども）では、批判している人もいつ事故や病気で当事者になるかもしれないと思っていたので、とても共感出来ました。
- ・生活保護などの支援の受け入れに不同意な方が、なぜ支援を受けないかの原因の一端がセルフスティグマになるという事。
- ・スティグマが形成される過程においてステレオタイプと偏見の形成が危険である事。克服のために自己と他者の同一性, 対象の個別化, 善意を疑い, 鈍感を持って排除する事を学んだ。
- ・スティグマについて初めてこんなに考えました。
- ・一人では気付けない事が多いので学ぶ機会を持ち続けたいと思います。
- ・差別や偏見が大きくなるとスティグマになり、また、それはいつどんな事でも起こり得るという事。誰の中にもその要因はあるのだろうという事。
- ・講義はぐっと胸に刺さりました。偏見についてずっと考えてきました。
今までも今のコロナ禍の中でも、私はスティグマをしていると思います。小さい時から障がい者が身近にいませんでした。特殊学級や、あの人は変な人だから近づくなとか。講義や演習を通して学んだ事、私がやらなければいけない事は、一步でもスティグマを失くすように、自分に問いかけ、報道に踊る事なく意識する事だと。私とどこも変わらないのだから、から始まるのだと思います。
- ・スティグマに様々な種類がある事を知りました。また、私自身も無意識にスティグマを使っていないか考える機会にもなりました。
他者へのスティグマは巡り巡って自分に返ってくる可能性もあるのだという事を念頭に置き、すべての人や物事に対して「そのもの(本質?)」を見る視点を養いたいと思いました。
- ・「スティグマ」について学び自分の中にある「スティグマ」を意識する事が出来ました。今までの研修会で「個別化」について学ぶ機会を得ていましたが、事例によっては個別化出来ない事がありました。今回、スティグマが邪魔をしていた事に気付く事が出来ました。
- ・TV や身近な人達の会話などにより、先入観からのネガティブなレッテル貼りに繋がる、という流れは日常的にあると思います。スティグマは、どこか遠くの他人の出来事ではなく、誰しもその対象になりえると思いました。今までを振り返り、自分自身がスティグマをしてしまったと思う事がたくさんあります。支援を行う上で病気への理解は必要ですが、事実と解釈（それもネガティブな解釈）は別物だと思います。「どうしたら良いのか?」をご本人との対話から一緒に考えていきたいと思いました。
- ・本人（個別化）を中心にする。スティグマに陥らないよう気を付ける。これで良いのかと考え続ける。粘り強く対応する。
- ・差別や偏見を持たない。自分がなりたくないか…、はい、と言えないところに、やはり大変、不便、迷惑をかける、という思いがあった。本音は知らず知らずのうちに差別や偏見の目で見ていたという事に改めて気づく事が出来ました。また、良かれと思って行っていた事が、実はそうではなかった事。もっと良い方法を考え続けていかなければいけなかった事を、改めて学ぶ事が出来ました。

<ul style="list-style-type: none"> ・歪曲し固定された観念が自分の中にある事をまず自覚する。 ・スティグマが形成される過程を理解し、そしてその克服のために自分の頭で考える事を常に意識付けしなければならない事を痛感します。また、自らの振り返りを怠り自己満足し、思考停止にならない事の積み重ねがスティグマの克服への歩みかと思えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・自己と他者の同一性。他人ごとではなく、自分事として考える事。いつ自分がその立場になるか分からない。 ・偏見や差別に対する自分自身の本音と社会福祉士としての倫理観、双方に向き合う事が大切
<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身、日常的にレッテルを張ってしまったり、スティグマをあまり意識していなかった事を反省した。偏見と差別をどうにかしていくためにいつか自分にも起こりうる問題と意識し、属性でくくらず個人個人を見ていく事が必要だと感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・スティグマにはパブリックスティグマとセルフスティグマがあり、自らの属性の中で抱え込んでいく危険性があり、援助要請に繋がらないという事を学んだ。スティグマの克服のために善意の支援に疑問を持ち、鈍感にならない・思考停止にならない事を学んだが、客観的な視点を持ち続ける事の難しさを感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・すごく考えさせられるものだった。誤った情報から偏った側面から見がちだが、多方面から多角的に見る事など自分を置き換えて考えられる思考を持っていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・社会には今までも様々な偏見や差別があり、自分でも知らず知らず偏見を持っているのではないかと振り返る事が出来た。それぞれは違うという事を受け止める事、レッテルを貼ってしまう事に気を付けたいと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・スティグマという言葉については聞いた事はありませんでしたが、意味について今回、よく分かりました。大橋先生のお考えも聞く事が出来て、とても勉強になりました。

<p>③得たことを実践でどのように活かしますか</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・“〇〇の人”として見るのではなく、「その人」から始まるという事を大事にしていきたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・事実と科学を意識したい。事実を確認するのに科学を活用していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・常に偏見や差別を持って行動や言動をしている可能性がある事を考えながら遂行しようと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・スティグマは、誰の中にでもあるという前提で人と関わっていき、だけど何とか無くなっていくような働きかけをしていきたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・知らないうちにステレオタイプ化しており、ネガティブな評価をしまいがちですが、差別をせず、個別で対応出来るように今後訓練を重ねていきたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の価値観や病気や障がいへの理解を深めながら、偏った見方を受け止めながら、当事者をしっかり見て支援していけるようにしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・本人の病気や症状だけで決めず、個別化を大事にし、本人の権利侵害になっている事はないか、本人の思いはどうかしっかり聞けるようになりたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・支援のあり方をこれで良いと決めつけず、他の方法がないか考えるように意識していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・思考停止にならずに常に最良の実践が出来るよう点検していこうと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分に関わる事以外の事で過剰に反応しない。 ・グループ分けせず、個人を見るように意識しましょう。

<ul style="list-style-type: none"> ・一般化したイメージをそのまま対人関係に持ち込まないように個別化という事を意識して生活していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・実践にかかしたいと思います。ケースにあてはめられるものに応用出来たらと考えました。
<ul style="list-style-type: none"> ・個別化を意識していきたくと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・個別化, 一人一人を見ていく, 偏見なく見ていけるようにする。 ・サポネットみやぎに相談する必要があるケースがあったら, 相談していきたく。 ・今後も考え続けていきたくと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分を疑う事。少なくとも「主観ではなく, 客観的に見ている」と思う考えを疑う。 ・キレイごとだけではなく, きたなく考えてしまう事も自分と認めて進みたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・自己と他者の同一性。思考停止を行わない。どうすれば良いのかもっと良い方法や違う事はないのかを自己満足にならないように今後, 実践していき活かしたく。
<ul style="list-style-type: none"> ・日々仕事上で一人ひとりを見るという事を意識して対応していますが, 専門性が高いとついつい利用者のためと話しながらも誘導に近い状況がある。本当にそうなのかと考え続け振り返りつ考え続ける事が大切だと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・サポネットの活用。人権侵害があれば相談に活用していきたく。
<ul style="list-style-type: none"> ・少し自分なりにかみくだく時間は必要ですが, 実践に活かせると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・一人の判断は難しい。判断する場合は誰かに相談しながら活動しようと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・知らず知らずのうちに自分が偏見を持ったり, 差別をしていたと感じました。「善意と鈍感」にあったように良かれと思ってやっている事が差別じゃないか, 思考を停止させずにやっていきたくです。個別化して見ていきたくです。
<ul style="list-style-type: none"> ・やまゆり園の話で「わからなくもない」「賛同」などの言葉に私たちが痛痒を感じない社会に歯止めがかからない。そのブレーキとなる群を増やしていく事をコツコツ…人生の宿題。
<ul style="list-style-type: none"> ・今自分が行っている事は, 我々が高齢者, 障がい者になった時に, 同じ事をされるという事。少しでも変えていければと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・まずは本人を主体として個別化してみる。そして, 権利を意識して考えるという事を意識的にやっていくようにしていきたく。
<ul style="list-style-type: none"> ・本人主体で見る事。 ・自分の対応の振り返りをやっていくようにしていきたく。
<ul style="list-style-type: none"> ・本人視点で仕事をする。 ・目的を明確にする。
<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりした知識が必要で, 本人の立場に立って考える事を実践していきたく。
<ul style="list-style-type: none"> ・その人を見る。 ・思考を停止させない。 ・自己満足に陥らない。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の価値観, 先入観で物事を見ていないか常に自分自身でチェックしていきたく。

<ul style="list-style-type: none"> ・居宅でケアマネをしています。確かに本人よりも家族の話の比率が多くなる事があります。もっと本人の話を聞き、出来ない事よりも出来る事に目を向けて家族にも伝えていきたいです。そうする事で本人の権利を守る事に繋がれば良いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・各々が持っている偏見は消えないが、支援者が気づき、対応していく事で周囲への理解が深まっていくのではないかと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・普段見逃してしまいそうな事に目を向け、対象を個別化し対応する。
<ul style="list-style-type: none"> ・その人を理解しようと努力する事。 ・一般化→個別化が権利擁護の基本だと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の業務の中で、今まで以上に意識していきたいと思いました。 ・自分の振り返りをしていきたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・思考停止に陥らないように、十分にやっていると思わない事だという事。 ・何度も言われている事ですが、本人の声を聴く事、すなわち主体は本人である事があたりまえの行動として出るようになる事。
<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の言葉をそのまま受け取って行動するのではなく、一度自分の頭で考えてから行動に移す事を習慣づけようと思います。 また、どのような人に対しても『その人個人を見る』という事を大切にしていきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・権利、権利侵害等について、今回の研修活かし考えますが、迷わず専門家に相談していきます。 ・『スティグマの克服』の為の方法を知る事ができたので、常に意識し考え振り返りをしていきたいと思います。その人を理解するためにも、病気や障がい、様々な知識を得ながら日々支援にあたってきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の意見を聞きつつ関わっているつもりではいますが、『つもり』のまま充分だ！と思考停止せずに、「分かりやすい話し方は出来ていたか？」「もっと良い方法はないか？」「ご本人はどう思っているか？」を問い続けていきたいと思います。また、その場で解決や判断が難しい場合には、一旦どこか適切な組織に相談してみたいと思いました。相談先が分かるととても良かったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・本人を見る、アセスメント力を付ける。 ・考え抜く。 ・粘り強く。 ・研修の機会を設ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・その病気や障がい、その他属性に一括りにしない。自己として考えたり、きちんと個人を見る。その時は事実を確認していく。安易な方法や良かれと思った事にただ乗らず、その人のため、ときれいな言葉で簡単に決めてしまうのではなく、本当にそれで良いのか、常に考える。その上で、もっと良い方法がないか、本人と話し合っ決めていきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・スティグマに対する自覚のレベルが低い事に気が付いたため、日々の実践において、意識する事を常にしたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターで働く社会福祉士として、その人を個別化して考える。一般化しない。日々の業務に追われ、思考停止に陥る事が多々あると感じた。考える事を止めず、考え続けていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・相談業務のなかでは、複合的に課題を抱えている相談者も少なくなく、精神疾患なのか知的に問題があるのか、発達障害なのか診断がついていないが問題を抱えている方たちの話を聞き、本人にとってどうあるべきなのか一緒に考え、思考停止しないようにしていきたいと思います。

- ・今回提示された事例は身近なものであり、また生きた事例であり、大変考えさせられた。日常の支援の中に埋没せず、支援者としての感覚を研ぎ、知識や専門性を磨いて、個別化の原則に従い、個々の状況・現状に即した支援に繋がられるようにしたいと強く思った。
- ・自分の目で見て、耳で聞いて、当事者本人の思いを確認し、支援する事。
- ・立ち位置を自覚し、法と連携する事を改めて確認。

④その他、この研修で感じたこと

- ・“その人のために”ではなく、“その人にとってどうなのか”“その人は、どう思っているのか”をきちんと見ていけるようになりたいです。思考停止にならないようにします。
- ・人対人の関係における一般の礼儀作法を専門的水準で高めるケースワーカーの内面的な態度である事を感じた。差別につながらないようにするにはどうしたら良いか考えていきたい。
- ・「思考停止しない」事が大切である事は良く理解出来ました。
- ・連日の勤務の久々のお休みで、今日は何度か思考停止してしまいました。
- ・自分の振り返りのきっかけになり、とても良かったです。
- ・プライバシーとスティグマというテーマでしたが、非常に分かりやすく良かったです。事例がたくさんあり、様々な角度から学べたので良かったです。
- ・グループ演習の意見交換で、色々な考え方に接し、考えを養う事が出来ました。
- ・グループ討議は、様々な意見を聞ける機会なので良かった。
- ・職場でもテーマをしぼり、討論する機会を日常で（職場で）作りたいです。
- ・大変勉強になりました。考える事を止めずにいきたいと思えます。
- ・皆様と話し合えた事が良い機会となりました。
- ・無意識で行っているかもしれないという事。振り返る事も大事だと思いました。
- ・とても勉強になる研修でした。振り返り、今後も学んでいこうと思えます。
- ・自分の意見でまとめる。相手に伝える。受け入れる。本質を見定めて、感情論を専門性とくっつけない事。
- ・当事者主体、ひとりひとは違うという事を常に考えていきたい。
- ・「エール」の研修があると気が引き締まります。自己満足で終わらないようにしていきたいと思えます。
- ・権利を守れない人の権利擁護の必要性を改めて実感した。専門職とのつながりについての必要性も実感しました。
- ・スティグマ、とても難しい事ですが知る事が出来て良かったです。
- ・権利擁護の視点を勉強させていただきありがとうございました。次はもっと法律の世界や、裁判所でどの様に審判されていくのか等を勉強させていただければ有難いです。
- ・みんなで話をする事は良いですね。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 法的な事も事例に多く出てきましたが, 都度弁護士さんからアドバイスがもらえ参考になりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 話合いのテーマを三点ぐらいに。 ・ 一回のグループセッションの時間にゆとりを。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 久々の研修で職場以外の専門職の方々と勉強が出来て良かったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで話合いをする事で, 自分にはない気づきに繋がる事が出来ました。また研修の機会があれば参加させていただきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報他, 普段から仕事に必要な知識, 考え方などが勉強出来て良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日効率が良い進行の研修だったので集中して受講出来ました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 分かっているふりをしないで, 正しく理解出来るよう努力していきたい。このような学びはこれからも受けたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ むき出しの差別が見られる。巻き込まれないようにしたい。意識します。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数でじっくり意見交換する事が出来, 貴重な時間でした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ とても個人的な考えですが, ステイグマでは性犯罪者は再犯するという思いがあり, そこは払拭出来ない部分だと思っています。そこは外に発信せずにいれば差別にならないのかと悶々としています。思考は止めません。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事に慣れて経験が長くなっていくほど, 偏見, 決めつけが多くなっていくように気付かされたので, 特に気を付けていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の事なので, つい, 忘れてしまいがちになるのではという事と, 忙しさに流されてしまいがちになる内容だと思います。そうならないように常に気持ちに留めておきたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ この研修がコロナ禍でタイムリーなテーマだと思います。大変良かったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 改めて, プライバシーもステイグマも私たちの生活の中で本当に身近な存在なのだと実感しました。きっと多くの人達が日頃意識しない中でたくさんのステイグマやプライバシーに関する行為や言動を無意識にしているのだと思います。今回, とても分かりやすい内容で学ぶ事が出来たので, 業務以外にも日常生活の中で活かしていこうと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 『権利』, 『権利侵害』等の難しさ, 『その人を理解する』事の難しさを痛感しました。利用者が不利益にならないように, 学びの継続と専門家の協力を得ながら今後の支援に当たっていきたいと思います。研修の機会をいただきありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 法律を踏まえた視点で, ご本人視点を学ぶ大変貴重な機会となりました。グループワークを通し, 他の方の視点や考えを聞く事が出来て目から鱗ばかりでした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインでの参加。移動時間がなく, 会場とほぼ同じ状況で参加出来たので, とても良かった。色々な職種での参加と意見交換が出来, 考え方・整理の仕方など参考になり, とても良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分一人で考え決めるのではなく, 多くの方に相談し, またそれぞれの専門職へ相談し, 本当にそれで良いのか, 自分自身が間違えている事は大いにあり得るので, 多くの意見を聞き, 自己満足にならないよう常に良い方法や関わりを考え続けていきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に正しい理解を深めるための学びの大切さを改めて痛感しています。

- ・ 今回の研修はとても難しいテーマだと感じた。差別・偏見という言葉を使う事はあるが、改めて自分と向き合う事も出来て良い機会になった。
- ・ 気軽に弁護士や他の専門職に相談して一緒に考えていく必要性を感じた。
- ・ 新型コロナによる誹謗中傷が横行する中で、感染した人や家族、そして医療従事者や介護従事者等が思わぬスティグマの状態に陥っている。それは感染症に対する知識不足・情報不足、誤解や不安や恐怖への過剰反応であり、ネット上での拡散や悪気がない正義観からの発信である事が多い。
このような事からプライバシー侵害やスティグマの問題は言葉を変えて以前から存在していたが、今ほど社会的に顕著になってきている時はないと思う。今回の研修テーマは本当に時宜を得たテーマであり、学ぶ事が多かったと思う。
- ・ また福祉的な視点だけでなく、法律的な視点を踏まえて広く学ぶことが出来たことは意義が大きいと感じた。今まで以上に弁護士の方々とのネットワークを強化して、様々な支援に効果的に繋がりたいと感じた。
- ・ 今後、ますますその人と会わずとも物事が成り立っていく。恐ろしい。SNS使用前に人権やその人を特定する（知らないところで公表される）相手のプライバシーを守る事で自分も守られる社会に気付かなくてはいけないと皆が学ぶべきだと感じた。
- ・ 物だけが日々発展しているが思考は止まっている事。
- ・ “思考停止” 確かに十分やったと思うと考えなくなる自分がいます。
- ・ サポネット等、皆さんに相談しながら仕事をしたいと思います。
- ・ オンラインでの参加でしたが、グループワークが思ったよりもやりやすかった。もう少し皆さんとグループワークをしたかった。